

# 平成21年度支部活動について

## —各支部からの報告—

### 北海道支部 事務局 鎌田 到

北海道支部の活動は、武部良平副支部長が参加した5月9日東京での理事会から始まりました。7月に開催された第19回日本工業教育経営研究会全国大会に、北海道美唄工業高等学校 小野博道氏が「地域社会と連携した実践的のものづくり教育—北を創る人づくり推進事業から—」と題して研究発表を行いました。同研究会理事会には四宮知之 支部長が参加いたしました。また、調査研究委員会において、校内工業設置校の活性化方策について調査研究をいたしました。

平成22年1月6日(水)、北海道高等学校教育研究大会終了後に平成21年度第10回北海道支部総会・研究会を、例年と同様に札幌医療福祉デジタル専門学校のご協力により同校を会場に開催いたしました。

日本工業技術教育学会名誉会長小林一也様、北海道教育庁学校教育局産業教育指導グループ指導主事 宮岡勝郎 様、北海道の工業教育を推進する会会長 藤本義則 様、元北海道札幌工業高等学校長 吉岡昇 様、北海道東海大学教授 大矢二郎 様、元北海道札幌工業高等学校長 眞野満男 様のご来賓をお迎えし、支部会員など総勢50名程の参加をいただきました。

開会式は 四宮知之 支部長の挨拶の後に、ご来賓の小林一也 様、宮岡勝郎 様よりご挨拶をいただき、続いて来賓の紹介がありました。総会では平成21年度事業及び会計決算と監査報告、平成22年度事業及び会計予算審議、佐藤俊 新支部長を始めとする新役員の選出が行われ、承認されました。

研究会では、始めに2つの講演が行われました。始めに、日本工業技術教育学会名誉会

長 小林一也 様より「働く喜び・働く誇り」と題して、戦後日本の歩みを「働くこと」を通して概観し、工業教育に関して示唆に富んだお話をいただき、小樽職人の会組頭 佐々木徹 様より「小樽職人の会と日本の歴史」と題して、職人の会の成り立ちと小樽の歴史に基づき、日本の工業技術についての貴重なお話をお聞きすることができました。研究発表では、北海道美唄工業高等学校教諭 小野博道氏より発表があり、最後に調査研究委員会より発表がなされました。講演2題、研究発表2題と大変有意義な研究会を開催することができました。



### 東北支部 事務局長 佐竹 清一

今年度の総会並びに研究協議会は、ご来賓として日本工業教育経営研究会山下省蔵会長、山形県教育庁阿部和久高校教育課長・横戸隆主任指導主事の先生方をお迎えし、東北各地より70名の会員が参加して盛大に開催された。

概要は次の通りである。

- 期日 平成21年11月21日(土)～22日(日)
- 会場 山形県 山形国際ホテル
- 内容
- 1 開会行事

## 2 総会

3 講演 1 「新学習指導要領のもとでのものづくり力の向上と教育課程編成のあり方について」～ものづくりの人材育成はどうあればよいか～

日本工業教育経営研究会長 山下省蔵 氏

4 講演 2 「わが国におけるキャリア教育・職業教育の課題と展望」～中央教育審議会特別部会の審議を踏まえて～

社団法人全国工業高等学校長協会理事長

佐藤 義雄 氏

5 講演 3 「山形県産業教育審議会答申を踏まえた本県教育のあり方について」

山形県教育庁高校教育課主任指導主事

横戸 隆 氏

## 6 研究発表

(1) 「ものづくりプロジェクト」～手作り太陽電池パネルから広がる地域貢献・国際貢献～ 山形県立東根工業高等学校

教諭 庄司 洋一

(2) 「TOPエンジニアの育成を目指して」～小中高大連携を通じて～

秋田県立大曲工業高等学校

教諭 佐々木 健

(3) 「喜多方地区統合高校における工業教育のあり方と方向性」～平成 22 年 4 月喜多方工業高校と喜多方商業高校の統合に関して～

福島県立喜多方工業高等学校

教頭 富樫 実

## 7 閉会行事

参加者は研究会の今日的な課題を踏まえた講演等の充実した研修内容に満足しつつ、次回の秋田大会での再会を誓い散会した。



遠藤正友東北支部会長挨拶

## 関東支部

事務局長 瀧沢 隆司

関東支部総会・研究協議会(参加者 60 名)

平成 21 年 11 月 28 日 (土)

於：東京都立工芸高等学校

総会

(1) 竹之内博次支部長挨拶

(2) 来賓挨拶 ①文部科学省教科調査官 池守 滋様 ②東京都教職員研修センター統括指導主事 三神幸男様 ③日本工業技術教育学会名誉会長 小林一也様 ④東京都工業高等学校長会会長 木暮守雄様

(3) 議事 竹之内支部長を議長に次の議案が審議され、いずれの議案も承認可決された。①平成 20 年度事業報告・決算報告、会計監査報告②平成 21 年度役員案③平成 21 年度事業計画案・予算案

講話 工業教育の今後

文部科学省教科調査官 池守 滋 様

工業教育について文部科学省としての見解が述べることができないうことで、その周辺の課題について時事評論的に話をされた。

講演 モノづくり産業が直面する課題と取り組み 日刊工業新聞社 論説委員会主幹 山崎 和雄 様

わが国のモノづくりを取り巻く課題、地球温暖化とモノづくり、企業の取り組み、モノづくり産業発展に向けてについて、豊富な資料に基づいて話をされたので、説得力のある講演になった。

研究協議

(1) 大学との連携による先進的なものづくり工業教育

神奈川県立平塚工科高等学校

白澤 敏広 様

(2) 「科学技術と人間」におけるエネルギーに関する指導法について

東京都立科学技術高等学校

嶋村 晃 様

(3) 地域産業の担い手育成プロジェクト

埼玉県立熊谷工業高等学校

吉野 博行 様

質疑応答と竹之内支部長による講評をしてもらった。会の終了後に、教育懇談会（於魚八珍）を実施した。

**北信越支部**

事務局長 黒川裕一

今年度の北信越支部総会研究協議会は石川県で開催されました。文部科学省より池守滋様、本部より小林一也様に出席いただき、2日目は、各県より研究発表いただきました。平成21年度日本工業教育経営研究会

第12回北信越支部総会・研究協議会

石川大会（参加者 84名）

期 日 平成21年8月8～9日

会 場 「ホテル ウェルネス 能登路」

石川県羽咋郡宝達志水町敷浪

【1日目】

1. 開会式

2. 北信越支部総会

3. 講演

演 題 「七尾城をめぐる興亡」

～歴史の博覧会場 七尾～

講 師 七尾市教育委員会文化財課  
課長補佐兼管理係長

善端 直 様

4. 講話

演 題 新しい学習指導要領について

講 師 文部科学省初等中等教育局  
産業教育振興室教科調査官

池守 滋 様

【2日目】

1. 研究協議 I

(1)発表1（石川県）

四脚門の建設～平成18・19年度我が国の  
伝統文化を尊重する教育に関する実  
践モデル事業～

石川県立羽咋工業高等学校

平石 隆司 様

(2) 発表2（新潟県）

地域に信頼される学校作り～工業マイ  
スター科の新設～

新潟県立新津工業高等学校

村田 幹夫 様

2. 研究協議 II

(1) 発表3（長野県）

工業高校における学校紹介の方法に関  
する考察～ものづくりの楽しさ、工業技  
術の楽しさを伝えるには～

長野県岩村田高等学校

荒川 昇 様

(2) 発表4（富山県）

工業科における安全管理、安全教育の充  
実について

富山県立高岡工芸高等学校

道端 克彦 様

3. 講評

石川県教育委員会事務局学校指導主事

平木 外二 様

4. 閉会式



北信越支部長藤田信雄

**近畿支部**

事務局長 戸谷裕明

平成21年度近畿支部総会

参加数56名)

平成21年5月23日(土)於 道頓堀ホテル  
総会において、平成21年度の近畿支部事  
業計画および組織体制を協議した。

講話：「新しい学習指導要領と工業教育」

文部科学省 教科調査官 池守 滋 様

講演Ⅰ：「コマツにおける技能伝承」

(株)小松製作所 大阪工場生産部工師長

藤本好明 様

講演Ⅱ：「技能士育成の課題と展望」

－ 1 級技能士の資格を取得して－

兵庫県立尼崎工業高等学校 機械科教諭

原田義輝 様

○平成21年度近畿支部第14回研究大会

(参加数100名)

平成21年12月5日(土)

於 神戸村野工業高等学校

池守様と佐藤様の講演を参考に、これからの工業教育の在り方を参加者全員で小グループに分かれてバズ・セッション(研究協議)を行った。

講話：「今後の工業教育の在り方」

文部科学省 教科調査官 池守 滋 様

講演：「中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会の審議から－我が国工業教育の専門の学力保障と国際通用性を考える－」

全国工業高等学校長協会理事長

佐藤義雄 様

バズ・セッション：

テーマ1「私の考える今後の技能・技術教育」

テーマ2「私の感じる工業教育の現状と課題」

テーマ3「キャリア教育の充実と高等教育機関への接続」



全国工業高等学校長協会理事長 佐藤義雄様

## 東海支部

事務局長 都筑 茂

今年度の東海支部の総会は、会員25名が集まり、工業教育の発展と工業高校の将来について協議されました。

○期日 平成22年2月10日(水)

○会場 ルブラ王山(名古屋市)

○内容

総会

(1)竹本禎久支部長挨拶

(2)来賓挨拶

愛知県立愛知工業高等学校長 吉見和俊様

(3)議事 竹本禎久支部長を議長に以下の

議案を審議し、いずれも承認可決した。

①平成20年度事業報告、決算報告、  
会計監査報告

②平成21年度事業計画、予算案

談話題

「これからの工業高校の在り方」－企業との連携－ 愛知県立起工業高等学校

杉山賢純 様

談話題の中で「今後の産業教育を支える人材の確保」では、ものづくりに興味関心の強い優秀な中学生の確保と育成が重要で、そのためには周囲(中学校、地域等)へのPR活動や企業との連携の必要性について意見が出された。

意見交換

企業における特色ある人材育成は、階層別研修、選抜社員による「技能塾」研修や自己啓発研修など、研修等を通して人材育成を行い、またチームとしての機能を活用し、社会人として必要な資質を育成している現状の報告があった。

工業高校と企業の連携は、インターシップやクラフトマン事業、知と技の探求教育講座などを積極的に受け入れ、工業高校の要望を受け入れている企業が増加してきたとの報告もあった。

# ユニバーサル技能五輪 SKILLS 2009 記録

2009年第40回技能五輪国際大会には、カナダのカルガリーで9月1日～4日に46カ国・地域から845人(日本は45人)が参加し、45職種の競技が繰り広げられた。5日・6日の2日間の審査の結果、次のようになり、7日に表彰式が行われた。

## 国・地域別のメダル獲得数

参加国・地域	韓国	スイス	日本	チャイニーズペニー	ブラジル	オーストラリア	イギリス	オーストリア	カナダ	南チカロル	フランス	ドイツ	アイルランド	フィンランド	スウェーデン	シンガポール	タイ	アメリカ合衆国	オランダ	ノルウェー	インド	イラン	ホルトガル	
金	13	7	6	4	4	2	3	4	3	1	3	2	3	2		3	2							
銀	5	2	3		4	3		2	3	3		2		1	3			2	1	1	1	1		
銅	5	5	5	8	2	5	6	2	2	4	4	2	2	2	2	1	2		1	1			1	
計	23	14	14	12	10	10	9	8	8	8	7	6	5	5	5	4	4	2	2		1	1	1	1

## 日本人メダル獲得者

職種名	氏名	所属先	成績
情報ネットワーク施工	野瀬 茂紘	(株)協和エクシオ	金メダル
メカトロニクス	長野 恭兵	日産自動車(株)	金メダル
	濱田 和洋	日産自動車(株)	
印刷	菊池 憲明	(株)トッパンコミュニケーションフロタフツ 札幌工場	金メダル
移動式ロボット	今井 悠太	(株)デンソー	金メダル
	尾崎 貴昭	(株)デンソー	
電工	川下 政彦	(株)きんでん	金メダル
車体塗装	堤 健	マツダ(株)	金メダル
自動車板金	岩崎 良洋	トヨタ自動車(株)	銀メダル
抜き型	安藤 公司	トヨタ自動車(株)	銀メダル
構造物鉄工	山崎 克也	(株)日立製作所 日立事業所	銀メダル
CNC旋盤	北山 紀之	(株)日立ハイテクノロジーズ ナノテクノロジー製品事業本部	銅メダル
CNCフライス盤	石橋 亮太	日立アプライアンス(株) 清水事業所	銅メダル
溶接	森 裕一	(株)豊田自動織機	銅メダル
左官	手塚 雄二郎	長野県左官事業協同組合	銅メダル
フラワー装飾	加瀬野 裕規	新井木生花店	銅メダル

## 入賞国・地域一覧

競技職種名	参加数		金	銀	銅	敢闘賞	その他日本選手の成績
	国・地域	選手					
ポリメカニクス	11	11	チャイニーズタイペイ	オーストリア	スイス	ブラジル	7位
情報ネットワーク施工	8	8	日本	ノルウェー	スウェーデン	-	金メダル
製造チームチャレンジ	8	24	韓国	オーストラリア	チャイニーズタイペイ	日本	4位(敢闘賞)
メカトロニクス	28	56	日本	ブラジル	韓国、スウェーデン	スイス、フィンランド、シンガポール、オーストリア、ドイツ、ベルギー、ベトナム、チャイニーズタイペイ	金メダル
機械製図CAD	18	18	ブラジル	スイス	ポルトガル、オランダ	シンガポール、イギリス、カナダ、チャイニーズタイペイ、インドネシア、リヒテンシュタイン、オーストリア	14位
CNC旋盤	20	20	オーストリア、韓国、タイ	-	日本	ブラジル、チャイニーズタイペイ、オランダ、ドイツ、カナダ、スイス	銅メダル
CNCフライス盤	17	17	韓国	ブラジル	日本	イラン、リヒテンシュタイン、チャイニーズタイペイ、シンガポール、スイス、ドイツ、ポルトガル	銅メダル

競技職種名	参加数		金	銀	銅	敢闘賞	その他日本選手の成績
	国・地域	選手					
抜き型	7	7	韓国	日本、インド	-	チャイニーズタイペイ、オーストリア	銀メダル
情報技術	18	18	ブラジル	オーストラリア	チャイニーズタイペイ	韓国、スイス、ベトナム、イラン、サウジアラビア、カナダ、シンガポール	17位
溶接	20	20	タイ	アメリカ	ブラジル、日本、オーストラリア	ポルトガル、カナダ、インドネシア、ニュージーランド、イラン、スウェーデン、チャイニーズタイペイ、韓国	銅メダル
印刷	14	14	スイス、日本	-	ドイツ、カナダ	フランス、香港、アメリカ、ニュージーランド	金メダル
タイル張り	20	20	韓国	ブラジル	オーストラリア、オーストリア、ドイツ	チャイニーズタイペイ、フィンランド、南チロル・イタリア、インドネシア、フランス、エストニア、オランダ 他1	19位
自動車板金	17	17	韓国	日本	ノルウェー、イギリス	スイス、デンマーク、オーストラリア、ドイツ	銀メダル
金属屋根葺き	7	7	スイス	スウェーデン	南チロル・イタリア、フランス	オーストリア	-
配管	23	23	オーストリア	オーストラリア、韓国	-	スイス、フランス、フィンランド、リヒテンシュタイン、イギリス、日本、タイ、デンマーク、アイスランド 他2	8位 (敢闘賞)
電子機器組立て	18	18	ブラジル、韓国、チャイニーズタイペイ	-	-	日本、スイス、シンガポール、ベトナム、イギリス	4位 (敢闘賞)
ウェブデザイン	25	25	スイス	カナダ	オーストラリア、韓国、ブラジル	チャイニーズタイペイ、スウェーデン、マカオ、オランダ、イラン、フィンランド、ポルトガル、フランス 他5	22位
電気	31	31	日本、イギリス、フランス	-	スイス	オーストリア、韓国、ノルウェー、ブラジル、ポルトガル、ニュージーランド、オーストラリア、カナダ 他4	金メダル
工場電気設備	21	21	オーストリア	スウェーデン、ドイツ	-	フランス、日本、フィンランド、韓国、オランダ、スイス、オーストラリア、インドネシア	5位 (敢闘賞)
れんが積み	20	20	韓国、フィンランド	-	南チロル・イタリア、オーストラリア	フランス、イギリス、オーストリア、スイス、デンマーク、アイルランド、スウェーデン	-
石工	9	9	スイス	韓国	フランス	イギリス、オーストリア、ポルトガル、日本	7位 (敢闘賞)
広告美術	14	14	スイス、イギリス	-	フランス	フィンランド、オーストラリア、韓国、チャイニーズタイペイ	-
移動式ロボット	14	28	日本、韓国	-	シンガポール、チャイニーズタイペイ	ドイツ	金メダル
家具	22	22	チャイニーズタイペイ、カナダ	-	南チロル・イタリア	フランス、韓国、フィンランド、オーストリア、インドネシア、スイス、エストニア、イギリス、スウェーデン 他2	16位
建具	19	19	韓国	ドイツ	スイス、イギリス	ベルギー、フランス、カナダ、ハンガリー、オーストラリア	19位
建築大工	15	15	アイルランド、スイス	-	オーストリア	オランダ、フランス、南チロル・イタリア、デンマーク、ドイツ、韓国	14位
貴金属装身具	16	16	韓国	ブラジル、南チロル・イタリア	-	日本、タイ、フィンランド、ポルトガル、チャイニーズタイペイ、イラン、スイス	4位 (敢闘賞)
フラワー装飾	18	18	フランス	スウェーデン	チャイニーズタイペイ、イギリス、日本	韓国、カナダ、マカオ、ノルウェー、オーストラリア、フィンランド	銅メダル
美容 / 理容	20	20	フィンランド	南チロル・イタリア	フランス	カナダ、ポルトガル、韓国、アメリカ、イギリス、オーストラリア、チャイニーズタイペイ	20位
ビューティーセラピー	18	18	オーストラリア	カナダ	イギリス	香港、アイルランド、フランス、スウェーデン、シンガポール、マレーシア	17位
洋裁	14	14	スイス	フィンランド	チャイニーズタイペイ、韓国、カナダ	タイ、マカオ	8位
洋菓子製造	14	14	オーストリア、南チロル・イタリア	-	韓国	スイス、イギリス、チャイニーズタイペイ、カナダ、フィンランド	11位
自動車工	28	28	アイルランド	アメリカ	韓国	チャイニーズタイペイ、カナダ、イギリス、南チロル・イタリア、スイス、オーストラリア、ニュージーランド、日本 他4	11位 (敢闘賞)
西洋料理	33	33	ドイツ、韓国、イギリス	-	チャイニーズタイペイ	フィンランド、オーストラリア、スイス、スウェーデン、カナダ、リヒテンシュタイン、ノルウェー、インドネシア 他9	30位
レストランサービス	25	25	オーストラリア、カナダ	-	南チロル・イタリア、イギリス、アイルランド	スウェーデン、オーストリア、ノルウェー、フィンランド、シンガポール、ドイツ、デンマーク、他7	20位
車体塗装	16	16	日本	韓国	フィンランド	タイ、デンマーク、チャイニーズタイペイ、オランダ、フランス、アメリカ、イギリス	金メダル
造園	15	30	ドイツ	オランダ、オーストリア	-	スイス、南チロル・イタリア、フランス、イギリス、日本、スウェーデン	8位 (敢闘賞)
冷凍技術	21	21	ブラジル	イラン	チャイニーズタイペイ、タイ	カナダ、アイルランド、フランス、オーストラリア、スウェーデン、日本、オランダ、香港、韓国	10位 (敢闘賞)
ITPC ネットワークサポート	26	26	シンガポール	韓国	スイス	フランス、イギリス、チャイニーズタイペイ、ベルギー、フィンランド、ポルトガル、ハンガリー、カナダ 他3	16位

競技職種名	参加数		金	銀	銅	取調賞	その他日本選手 の成績
	国・地域	選手					
グラフィックデザイン	20	20	カナダ、シンガポール	-	タイ	南チロル・イタリア、オーストラリア、チャイニーズタイペイ、ベルギー、ブラジル、オランダ、韓国、フランス	12位
看護	9	18	シンガポール	南チロル・イタリア	フィンランド	オランダ、ノルウェー、スウェーデン	-
航空機整備	4	4	アイルランド	カナダ	イギリス	-	-
構造物鉄工	9	9	韓国	日本	チャイニーズタイペイ、スイス、アイルランド	-	銀メダル
左官	6	6	フランス	スイス	日本	-	銅メダル
曲げ板金	7	7	チャイニーズタイペイ	韓国	オーストラリア	ニュージーランド、フランス	6位
合計(45職種)	763	845					

日刊工業新聞 2009.10.19・26

モノづくりの光景 早稲田大学商学学術院教授 鶴飼信一

10/19 18 未来のマイスター

見て覚える町工場に将来の熟練者や備軍を送り込むべき役割を担っているのが工業高校などの教育機関だ。2008年度の工業高校生数は27万1968人で、全高校生の8.1%を占めるが、近年の教育行政においては技能実習などで心身を鍛えるという思想が弱まりつつあることが懸念される。

筆者は全国工業高等学校校長協会が行っているジュニアマイスター顕彰認定委員会に参加している。この制度は01年度から工業高校を対象に実施されている。将来の仕事や学業に必要と考えられる国家職業資格や各種検定、および各種コンテストの入賞成績を点数化した得点区分表を作り、これに基づいた総合得点が一定以上の点数を獲得した生徒にはジュニアマイスターシルバーやジュニアマイスターゴールドの称号が与えられる。現在、毎年7000人ほどの生徒がこれらの顕彰を受けており、特に優秀な生徒には経済産業大臣賞も贈られている。

この制度を始めた当初は、ロボットなどの製品コンテスト入賞者が上位を占める傾向が強かったが、近年は技能検定などの資格を重視するようになり得点区分表を改定してきている。こうした試みを行うことで、工業高校において生徒に技能や技術の基

本をしっかりと身につけてほしいという目的が明確に生かされていくことを期待しているからである。

以前、夏休みに山形県長井市の長井工業高校を訪問したことがある。そこでは技能検定3級を受けるために生徒たちが実習中であつた。一日5〜6時間は練習するという。フライングや旋盤に張り付いて、61歳になる先生の訥々とした山形弁による指導を受けていた。先生は段取り、加工、計測、整理整頓にいたるまで実に丁寧な指導をされていた。

この学校は熱心なモノづくり教育で有名だが、やはりしっかりと指導のできる先生がいないと技能検定合格者を多数輩出することは不可能だろうと痛感した。先生に対する生徒たちの信頼は厚く、われわれが大学の講義で浴びるのは段違いの真剣な視線が先生に注がれていた。統廃合の危機を地域社会の力で乗り越えてきたこの高校の校舎には「長工生と地域を潤す源流となれ」との垂れ幕がかかっていた。

10/26 19 総合高校化への問題点

工業高校のモノづくり教育を考える時、最も気がかりなのは、地道に技能や技術の基本を教える専門家を軽視する傾向が地方や国の教育システムの上部に見られることだ。卒業して現場に入る生徒の長い勤労生活を支えるのは、十代で獲得した心身の基本姿勢なのだ。定型的なこと、基本的なことこそ若いうちでしっかりと教えるべきだ。すぐに覚えなくても良い。教師が汗を流して教える姿勢を見せ続けることで生徒の中に何かが生産される。生徒にとって教師は「草木における太陽」なのである。太陽が暗流に迎合して軸ぶれているらどうにもならない。

数年前から工業高校を廃止して総合産業高校に看板を塗り替えていくとする動きが顕著だが、そうやってまで「工学・情報・環境・バイオ」などの多分野にわたり、産業を総合的に学ぶ教育を提供する意味があるのか。そこでは技能実習が大幅に削減されることは確実だ。モノづくりに必要な道具を正しく使いこなすことのできる生徒は確実に減る。カナツツを使う姿勢まで指導してくれる教師はいなくなる。代わりに付け焼き刃の宇宙工学を教えてもろって何が身につくのだろうか。

工業高校のモノづくり教育を考える時、最も気がかりなのは、地道に技能や技術の基本を教える専門家を軽視する傾向が地方や国の教育システムの上部に見られることだ。卒業して現場に入る生徒の長い勤労生活を支えるのは、十代で獲得した心身の基本姿勢なのだ。定型的なこと、基本的なことこそ若いうちでしっかりと教えるべきだ。すぐに覚えなくても良い。教師が汗を流して教える姿勢を見せ続けることで生徒の中に何かが生産される。生徒にとって教師は「草木における太陽」なのである。太陽が暗流に迎合して軸ぶれているらどうにもならない。

数年前から工業高校を廃止して総合産業高校に看板を塗り替えていくとする動きが顕著だが、そうやってまで「工学・情報・環境・バイオ」などの多分野にわたり、産業を総合的に学ぶ教育を提供する意味があるのか。そこでは技能実習が大幅に削減されることは確実だ。モノづくりに必要な道具を正しく使いこなすことのできる生徒は確実に減る。カナツツを使う姿勢まで指導してくれる教師はいなくなる。代わりに付け焼き刃の宇宙工学を教えてもろって何が身につくのだろうか。

歩はこれを扱ふ基本的な姿勢を身につけておく必要がある。基本姿勢が身につけば動く気構えも自然と出てくる。身につけておけば反復練習しかない。これによって高度な技能が身に付くわけではないが、将来、高い技能や技術を身につけておくことが可能な心身を養成するのである。人間は身体化されたものによって勝負をしているのである。

このような将来につながる基本的な実習を軽んじて、流行の先端科学もさきの学習を増やして生徒をどのような人間にしたいのだろうか。今の教育行政は若い人が成長していくプロセスを無視してきている。始めに応用編を教えてどうするのだ。教育は浅薄な二一スに対応すべきものではない。安易な構想で現実感の少ない講義を充実させて何になる。

すべて役立つものは、すべて不要となる。教育行政には「20年先の本人と社会のために」という視座が必要だ。「国際化、情報化、先端技術や地球環境問題に関する机上の知識」はあるが「道具一つ満足に扱えない」生徒と、「モノづくりが好き」で「道具や設備の扱い方の基本を身につけた」工業高校生。将来、モノづくりの分野で付加価値を生み出すのはどちらだろうか。

世界のトヨタの大規模リコー  
ルは、一自動車メーカーを超え  
て日本の製造業全体が直面する  
問題と映ります。日本のものつ  
くりは盤石なのでしょう。

トヨタ自動車の世界への貢献に  
は計り知れないものがあります。  
一九〇八年、フォードが開始し  
たベルトコンベヤーによる分業と  
流れ作業の大量生産方式は、二十  
世紀の車社会を出現させました。  
続くGM（ゼネラル・モーター  
ズ）のモデルチェンジと大型高級  
化販売戦略は車を誰もが欲しが  
る憧れの商品に躍進させました。

ものづくりは日本の命

これに対して、トヨタの編み出  
したカンバン方式は部品在庫一掃  
の革新的な生産方式でした。シャ  
スト・イン・タイムとも呼ばれる  
この究極のコスト削減策は自動車  
の生産現場ばかりか、あらゆる企  
業に導入されていくことになり、  
グローバル時代をけん引する方式  
となったともいえます。  
もちろんその徹底したコスト削  
減と効率化が意味をもち輝くのは  
高品質に支えられることが絶対条  
件です。ものづくりへの信用と信  
頼があつてのコスト削減です。

トヨタのリコール問題は品質問  
題だけに還元できない側面をもつ  
ようですが、一企業だけの問題と  
して見過ごせないのは、市場原  
理に染まった日本の社会そのもの  
が、ものづくりの心や働くことの  
問いかけを忘れてしまったのでは  
ないかとの疑問がよぎるからです。  
そんな時代への反省からでしょ  
う。社員教育に徒弟制度を取り入  
れている横浜市都筑区の小さな木  
工会社が全国的な話題と注目を集  
めています。

注文家具をつくる有限会社「秋  
山木工」で、家具職人の秋山利輝  
さん（仮名）が代表。「技能五輪全国  
大会」の金メダリストなどの一流  
の職人が次々と育っています。

不器用人間が一流になる

徒弟制度は江戸時代から二百五  
十年の歴史と伝統をもちますが、  
秋山木工の制度は、秋山代表の体  
験から生み出された独自のシステ  
ムです。さまざまな工夫のなかの  
最大の特長は面接の徹底でしょ  
う。入社希望の若者本人ばかり  
か、秋山代表の、若者の実家を訪  
ねての両親への長時間面談が加わ  
ります。

厳しいスパルタ教育に耐えるに  
は本人の決意と覚悟のほかに両親  
の見守りと励ましが必要だ  
からです。修業が生平可でないこ  
とはやがてわかってきます。

毎年三月、二十人の新入社員  
が採用されます。倍率は十倍前  
後、北海道から沖縄まで、高卒に  
一流国立大学の卒業生も交じりま  
す。丁稚としての四年の研修と職  
人としての四年の修業の計八年が  
職人養成の全行程です。

入社時は男も女も丸刈り。最初  
の四年は寮生活で、休みは盆と正  
月の十日間。この間、親の面会も  
恋愛も許されません。毎朝五時前  
の起床、近所の掃除とマラソン、  
平均睡眠時間三〜四時間のハード  
な日々とあつては脱落者が出ても  
不思議ではありません。むしろ耐  
え抜く若者が多いことの方に、頼  
もしさこの国の未来への希望を  
感じさせます。

奈良県明日香村の最も貧しい家  
に生まれ、中学二年まで名前も書  
けなかった秋山代表を積極人間に  
変えたのは徒弟制度下での必死の  
修業でした。下積み時代の苦勞  
は、将来、壁を乗り越えるための  
投資が信念ともなりました。  
著書の「丁稚のすすめ」（幻冬

舎）には体験から得た数々の特論  
が披露されています。「職人は技  
術より人間性」「不器用な人間ほ  
ど一流になれる」「褒めるよりも  
叱って伸ばす」

器用な人間は謙虚な心を忘れ傲  
慢になり、結局は謙虚にひたむき  
にやり続ける不器用人間が大成す  
ることになったりするからです。

秋山木工からはこの三十年で五  
十人の職人が巣立ちました。一人  
前にした職人を八年で退職させる  
のは企業経営の点からは損失です  
が、世界に通用する職人を一人で  
も多くと送り出すとのこれまで  
の人生への恩返しの実践です。

それに弟子たちが他社や海外で  
腕を磨き、自分と同じように職人  
を育ててくれることを期待してい  
ます。そうすれば職人魂が次々に  
引き継がれ、日本のすばらしい技  
術と文化が伝えられ生き残ってい  
くことにもなるからです。

若者たちに愛され尊敬される献  
身的な親方の存在。そこに徒弟制  
度が二十一世紀に生き残れるかど  
うかのカギがあるようです。  
仕事や幸福を見つめる  
マネーゲームにも似た倫理なき  
資本主義には空しさが漂います。

かつての西洋が資本主義発展のな  
かにプロテスタンティズムの倫理  
を見たように日本にもそれぞれが  
その仕事に励むことによって救い  
が得られるとの教えや考えがあり  
ました。仕事や幸福についてあら  
ためて見つめ直す時期です。

読んでほしい本

1 日本で最も人材を育成する会社	坂井 穰	光文社	740 円
2 次に来るメディアは何か	河内 孝	ちくま新書	740 円
3 世界を知る力	手島実郎	PHP 新書	720 円
4 丁稚のすすめ	秋山利輝	幻冬舎	1,400 円



# 事務局だより

## ☆☆☆ 学会事務局 ☆☆☆

◆学会誌「工業技術教育研究」第15巻第1号ができあがりましたので、この会報と同封いたします。

原著論文は「日本と韓国の工業高校情報教育の比較研究」、「日韓中学生の技術に対する態度に関する比較」の2編だけです。ぜひ、ご覧ください。

さて、第20回全国研究大会には学会論文発表として10編の研究発表申込があり、大会案内のようになりました。只今、「工業技術教育研究」第16巻への論文を受け付けていますので、奮ってご投稿ください。

◆本年度も、大勢の方が学会に加入くださることを願っています。

## ☆☆☆ 研究会事務局 ☆☆☆

◆会報第39号をお届けします。平成22年度第20回工業教育全国研究大会(二十周年記念大会)は、平成22年7月10日・11日に東京都の拓殖大学文京キャンパスで、関東支部主

管によって開催されます。会員の皆様には多数ご参加いただくようお願いします。ぜひ東京へおいでください。この号では、巻頭言、第20回工業教育全国研究大会の案内、モノづくりの新日本モデル、これからの教育改革と新学習指導要領の実施に向けて、転換期の工業教育、平成21年度の支部活動、2009国際技能五輪、日刊工業新聞モノづくりの光景、東京新聞社説、読んでほしい本、事務局だよりなどを掲載しました。本会報にも論文・随想・意見等を奮ってご投稿ください。

◆年会費の納入につきましては、本年度は下表の通りです。会員各位の一層のご協力をお願いします。

◆新会員の加入につきましてもご協力ください。入会案内・申込書・会費振込用紙等は事務局までご請求いただければ、送付いたします。有為な人材の開発・育成にご配慮をお願いします。

## 平成21年度 研究会・学会の会員数と会費納入者数

平成22年2月12日現在

支 部	研究会 会員	学会の み会員	合計 会員数	会 費 納 入 者数、%	支 部	研究会 会員	学会の み会員	合計 会員数	会 費 納 入 者数、%
北海道	57人	1人	58人	30人、52%	近 畿	80人	9人	89人	46人、52%
東 北	28人	0人	28人	19人、68%	中四国	32人	0人	32人	21人、66%
関 東	103人	12人	115人	80人、70%	九 州	13人	2人	15人	6人、40%
北信越	62人	1人	63人	33人、52%	合 計	412人	28人	440人	235人、53%
東 海	37人	3人	40人	14人、35%	(備考) 賛助会員 2社		会費納入 2社		

日本工業技術教育学会・日本工業教育経営研究会ホームページアドレス：<http://www.industrial-ed.jp>

### <口座番号>

三井住友銀行 高田馬場支店 普通預金口座 3566025  
郵便局 00130-2-755590

いずれも「日本工業教育経営研究会」宛

口座振込による会費納入の場合は、各金融機関の受領書をもって領収書に代えさせていただきます。

### 発行者

日本工業教育経営研究会 会長 山下 省蔵  
日本工業技術教育学会 会長 岩本 宗治  
〒143-0023

東京都大田区山王1-23-6

TEL・FAX 03-3771-0598